

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成22年9月11日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171900067&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171900067&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年10月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間に上下関係はなく、何でも言える環境を築いている。そのため、ミーティングや申送りの時、鋭い意見も飛び出す。良い意見が出れば即実行に移す様になっている。又、職員が介護疲れしない様職員の人数には余裕を持ち、休日を多く取れる配慮をしているので、皆、元気で明るい職員ばかりだ。こんな伸び伸びとした職場なので、外を通る人々にもアットホームな感じが伝わり、職員の顔を見れば挨拶してくれる。地域との関係は強力で、奇数月に開く運営推進会議には、区長を始め、区の役員、民生委員、市役所職員、包括支援センター職員などが集まり、それぞれが非常に協力的だ。区が行なう大きなイベントなどには必ず招待され、又、830世帯を越す地域なので、回覧板も100部作成し、ポロ布募集の時は、多くのポロ布が集まって来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム独自の歌と歌に合わせたホーム体操があり、毎朝職員と利用者が一緒に合唱し、体操しながら自然体で身体能力の維持を図っている。開設時は地元からの反対意見もあったが、今ではホームの拡大を地元から囑望され、2ユニットへの意見が行政に届き、増床に向けて計画が進行中の状況となっている。日々の生活は常に利用者のペースを尊重する為に、手厚くゆとりある職員配置としてあり、利用者や職員間や職員同志の会話も落ち着いた雰囲気を感じられる。月1回のミーティングは、業務として全職員が参加しやすい夜間に開催し、年齢差はあるが何でも話しやすい雰囲気があり、利用者の生活を支える原点となっている。外部評価における自己評価においても、全職員で取組んでおり、利用者に質の良いサービスを提供できるよう常に前向きに努力しているホームである。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝夕の申し送り時に理念を復唱し、常に念頭においている。	利用者が尊重され安全で安心して暮らせるように、「叱らず制止せず利用者のペースを最優先する」を理念としている。全職員が毎朝、唱和し意識づけながら日々の介護を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出かけたり、ホームのイベントに来て頂いたりと交流をしている。	自治会に加入し地区住民との交流が活発化し、ホームへの理解が得られ、拡大へと要望される状況となっている。ホーム行事や日々の様子を回覧板で知らせ、双方がいつでも行き来できる関係がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解も深めて頂くよう回覧を回し、不用になった衣類、タオル等の回収を呼び掛け、持って来て頂いたり取りに行く事を行なっている。また、ホーム内のイベント(コンサート、演劇)は皆さんにも呼び掛け、地域の方々にも喜んで頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開きホームの活動状況を報告、委員会からは質問や意見、地域の状況等の説明を受け、イベント参加などのサービス向上に努めている。	運営委員が参加しやすい夜間時間に開催し、様々な意見が、ホームの運営に活かされている。家族の参加がなく、会議の報告が家族にされていない。	推進会議への参加を促し、会議の報告を家族にすることで、ホームの理解が得られ、よりよいホームに向上していただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後のケアサービスの足掛りとして「傾聴ボランティア」の皆さんに手を上げて頂き、毎月訪問して頂いている。	本庁舎のみならず、社会福祉協議会や包括支援センターとも頻りに意見が交流できる関係がある。行政の介護保険運営推進会議の事業者代表としても参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けた職員が発表し、会議の時に勉強している。玄関の外に出ようとする人に対して、ブザーは鳴るが施錠はしていない。又、外に出て行かれる利用者様には必ず一人の職員が付き20分程度の散歩をして帰ってくる。	夜間のみ施錠し、玄関にチャイムは設置してあるが、外出の気配があれば、職員と一緒に付き添う配慮をしている。ミーティングや日々の申し送りでも常に拘束しない話し合いをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1度のミーティングを行い、利用者の様子等を話し合い虐待防止に繋げている。		

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のシンポジウムには参加し理解している。現在1名の方が利用されており支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には家族が十分納得出来る様説明し、理解してもらった上で入所する様努力している。その後、不安や疑問がある時はその都度相談にのっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の方と職員が良く話が出来ており、家族の要望等、又事業所の要望が聞かれている。	職員は、面会時に家族から意見を聞いたり、遠方の家族には電話や手紙で意見を引きだす努力をしている。玄関に意見箱を設置し、誰でも要望や意見を書きやすい工夫がしてある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常日頃身近にいて、どんな些細な問題でも相談にのり職員が働きやすい様努力している。又、話を聞いてもらう事により、仕事の意欲向上ともなる。	職員の年齢差はあるが、気安く話し合いができる雰囲気があり、外部評価を全職員で作成し運営に反映している。全職員が参加しやすい夜間時間にミーティングを行い、意見交換やケアの向上に向けた話し合いをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者も現場におり、話し易い場を作っている。日頃から意見交換をし、職員の資格取得に向けた支援を行ない、良くして行こうと思っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対して経験豊かな職員が交互につき研修に当たる。一般職員の研修がある時は参加する様にしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	どこの施設も忙しく、なかなか交流を行なう時間がないが、他の同業者の方(代表者)と検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が利用者さんとコミュニケーションをはかり、どんな些細な事でも相談にのり、困っている事、不安な事など話される中、安心して頂ける言葉掛けや介助にて関係作りに努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはホームに来所して頂いたり、手紙、電話等で状況を共有し、一方通行にならない様協力を求める事により、信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としている事を見極め、一番良い方向に持っていける様勤めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに見合った仕事をして頂き、共に出来る事は行い、後は見守りをして信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を手紙にしたり、家族会を開催したり、ホームに来所された時は職員が対応し家族の関係を深めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を忘れない為に周辺をドライブし思い出されると会話が弾む。	住み慣れた自宅を見に行ったり、馴染みの美容院に行く支援をしている。利用者の友人をホームに招き、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に加わり、アルバム等を見ながら昔話、家族の事など話す事によりお互い同じ立場にいることを理解して関わり合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後も、職員が代わる代わるの見舞いに行ったり、家族の相談や支援など必要に応じて連絡にも心掛けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望を常に伺い言葉や表情から何を要望されているかを把握し、希望に添える様努力している。本人が希望した場所、馴染みの公園、神社等へドライブに行く。	利用者がつぶやく言葉や仕草を見逃さず、気づきノートに記録し、傾聴ボランティアとの会話のなか等、様々な場面で意向を把握する努力をしている。家族へ電話したり、外出先の希望があれば、意向を尊重している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、個々の好み、趣味、昔話などを聞き、馴染みの場所へ行ったり、喫茶店に時々行ったりして努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心の状態、変化を素早く気づき、日報、申し送りノート等により、全職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個々の担当者が生活状況を報告し合い、問題点等を話し合い、家族、主治医との話し合いにより、より一層現状に即す様にしている。	食事・排泄・入浴等が一目でわかる生活リズムパターンシートを活用し、常に状態把握し観察と気づきを心がけている。医師の指示や利用者・家族の希望も入れて、担当職員・ホーム長・ケアマネジャーと一緒に計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に個別記録し、毎日(朝、夕)の申し送りにて情報を報告し、気づきノートがあり、全ての職員が出勤時に記録を読む様にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院、買い物、銀行へ行く時等の付添い、送迎など柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により、公共の施設を利用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある場合は、かかりつけ医に通院し、かかりつけ医のない利用者は月2回の訪問診療で受診出来る様になっている。又、家族がかかりつけ医に行けない場合は職員が付添う事もある。	月2回の協力医の往診と、緊急時はいつでも指示が得られる関係であり、歯科医の往診もある。入居前からのかかりつけ医での受診も支援し、家族が付き添えないときは職員が同行している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、介護職員が体調、顔の表情の変化を見逃さない様にし、異常がある場合は主治医の診察を受ける様にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、管理者は毎日利用者を見舞い、病院関係者と密に情報を交換をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、重度化した場合の事を思って他施設(例:特養)への申込みも早めに行なう様説明し理解してもらう。	食べるのが困難になった時は入院治療となることを、入居時に家族に説明し理解を得ている。ホームでは本人・家族の思いを尊重し医師から適切な指示を受け、その都度全職員が方針を共有し支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防署の指導により消火、救急救命訓練を定期的実践している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員が防災、避難訓練を定期的に行わない、避難経路、避難場所等は地域との協力体制が出来ている。	年4回の避難訓練を実施し、緊急脱出用の滑り台も設置してある。安全に避難できるよう整備したが、就寝場所が2階であり、夜間を想定した訓練や地域住民の協力を得た訓練はまだ実施されていない。	区長さんより地域住民を巻き込んだ訓練に協力的な言葉をいただいているので、滑り台の体験も含め実施に向け努力されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安易に声掛した事が尊厳、プライバシーを損ねる場合があるので常に注意を払い、一人ひとりの性格も考慮した上で対応している。	職員は日ごろから、同じ目線での声かけで対応している。トイレ誘導の場合も手招きしたり、耳元でそっと声かけする等一人ひとりに合わせた対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話をしたい時、お墓参りに行きたい時、美容院に出掛けたい時、本人の希望によりいつでも対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時ゆっくりしていたい人、早く就寝したい人、テレビを観たい人、手芸をしたい人、昼間横になりたい人それぞれその人に合わせる様にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った着易い服装を本人の意向で決められる人は決めてもらい、支援が必要な人にはアドバイスをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感、いどり等を考え、好みも取り入れた献立にしている。手伝いが出来る人には出来る範囲で盛り付けや後片付け等を手伝ってもらう。	材料の下ごしらえや盛り付け、後片付け等、利用者も出来る範囲で職員と一緒にやっている。食べたいものの希望を聞き献立に取り入れ、ホームの畑で収穫した旬の野菜を使う等、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が個々に違うのでその人にあった分量とし、又水分は特に注意して、極力飲用してもらう様心掛けて記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口ゆすぎ、歯磨、舌の苔取り等イオン水での口腔ケアを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その人に合わせて、布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使用をしている。	生活リズムパターンシートで一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間も1時間毎に巡回し安眠を妨げない配慮をし、トイレ誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は勿論、水分補給、毎日の運動を行なっている。どうしても薬を服用する場合は個々の状態に合わせて、使用量、使用日数等工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分を考慮し、入浴剤にもリラックス出来る様な物を使い、湯の温度もその人に合わせる様になっている。拒む方には職員の声掛けや対応の工夫をし、チームプレー等で入浴支援をしている。	1日おきの入浴となっているが希望があれば毎日でも可能である。入浴剤や菖蒲湯等で雰囲気を変え楽しめるよう支援している。入浴を拒む人には時間をおいたり、タイミングを見計らい入浴できるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、日中は体操、歌等のレクリエーションを通し、外出もしたり、日光浴をしたりする事で安眠出来る様にする。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬箱から、用意する人、確認し服用させる人を決めている(全職員が把握している)。又、症状の変化は送り帳で確認したり口頭で確認する。納得がいかない場合は他の職員とも確認する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作り物、カラオケ、又食事の後片付け等を行なって頂いたり、誕生日には担当者が行きたい所、食べたい物等本人の希望を聞いて外出計画を立て、楽しんで過ごす日を設けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々にドライブ、花見、紅葉狩り等に出席している。お弁当持ちで出掛ける時も時々ある。	利用者の身体レベルにあわせ近所を散歩したり、喫茶店に出かけている。お正月に全員で初詣でに出かける等、車でのドライブは頻りにあり、家族も一緒に出かけることもある。	

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には多額なお金は持たない様に理解して頂いているが、自己管理している人と、事務所で預かり必要に応じて確認しながら出し入れを行なえる様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援している。手紙は自分で書かない利用者が多い為職員が支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日の掃除により臭いがなく、衛生面では手摺、ドアノブ等を毎日消毒し、日々不快がない様気をつけている。光や温度調整もこまめに行なっている。玄関ホールには毎月季節に応じた作品を展示したり、狭い畑に季節の野菜が出来、草花も咲いている。	廊下に長いすを並べ、居間にはソファーや籐のいすを置き自由にくつろげる空間である。畳の間で新聞を読む利用者の姿も見受けられた。利用者と一緒に毎日掃除を行い清潔で過ごしやすい共用空間としている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳の間とソファー・テーブルが設置してあり自由に本を読んだり、お喋りをしたり、テレビを観たり、畳で寝たりと自由に過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスの上には孫や家族の写真が置いてあったり、又仏壇が置いてあり、本、アルバム、新聞などを持ち込み自由に過ごしてみえる。	居室の入り口に一人ひとりに合わせた表札を掛けている。部屋の中には、使い慣れたタンスやいす、仏壇・家族写真・利用者手作りの小物等を置き、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計がいたる所に設置してあり、トイレ表示は矢印を用いて解り易くしてある。表札は特製の木の物と、目線にはひらがなの物が掛けてある。		